

# 豊平のあゆみ

2022年 区制50周年  
特別企画 第2回

令和4(2022)年に迎える節目を前に、豊平区の歴史をたどります

## ～交通機関編～

令和2年9月号から始まった区政50周年特別企画「豊平のあゆみ」。今月の特集は、その第2回として、豊平区の交通機関を取り上げます。約半世紀前までは現在の区内で交通手段として活躍していた鉄道や市電。今はその姿を見ることはなくなりましたが、長い間、人々の生活を支えていました。まちの発展と共に移り変わってきた豊平区の「足」の歴史を振り返ります。

【詳細】区役所総務企画課 ☎822-2407

### 1 初期の交通手段

#### 定山溪鉄道の開業と豊平駅の誕生

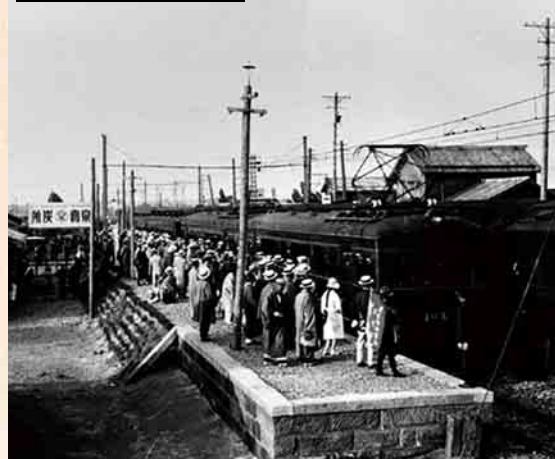
開拓が始まった明治時代、札幌では人力車や馬車が主な交通手段でしたが、大正初期、まちの発展に伴い新たな交通手段が求められていました。これを受け、木材や鉱石の運搬、観光客の輸送などを目的に、大正7(1918)年10月、定山溪鉄道(以下、「定鉄」)が開業しました。当初は蒸気機関車による白石～定山溪間の営業で、定鉄豊平駅もこのとき誕生。初代駅舎の場所は室蘭街道(現・国道36号)から100メートルほど南、現在の豊平5条9丁目付近にありました。一方、このころ札幌電気軌道株式会社が路面電車の運行を開始。豊平川手前の南4条東3丁目まで通じていました。



札幌市公文書館所蔵

▲豊平駅構内の定鉄(大正8年)

札幌市公文書館所蔵



▲定鉄豊平駅(現在の豊平4条9丁目付近)のホーム(昭和6年)

#### 鉄道の電化と路面電車の接続

豊平橋が架け替えられた大正13(1924)年、路面電車が初めて豊平川を渡り、その後、昭和2(1927)年に市営化。昭和4(1929)年には定鉄豊平駅前まで延長されました。一方、定鉄は同年に東札幌～定山溪間を電化。高速化と大量輸送を実現すると、豊平駅の駅舎は室蘭街道沿いに移設されました。これにより豊平の地において、定鉄と市電網が結ばれることとなりました。



▲豊平橋を渡る路面電車(昭和初期)

年表

大正7 1918	大正13 1924	昭和2 1927	昭和4 1929	昭和5 1930	昭和6 1931	昭和7 1932
定山溪鉄道が開業し、定鉄豊平駅が誕生	豊平橋が架け替えられ、路面電車が豊平川を渡る	路面電車が市営化される	市電豊平線が豊平駅前まで延長。定鉄豊平駅が室蘭街道付近に移設。定鉄の東札幌～定山溪間が電化	札幌市がバス事業を開始	北海道鉄道の東札幌～苗穂間が電化	定鉄がバス事業を開始(現在のじょうてつバスの前身)

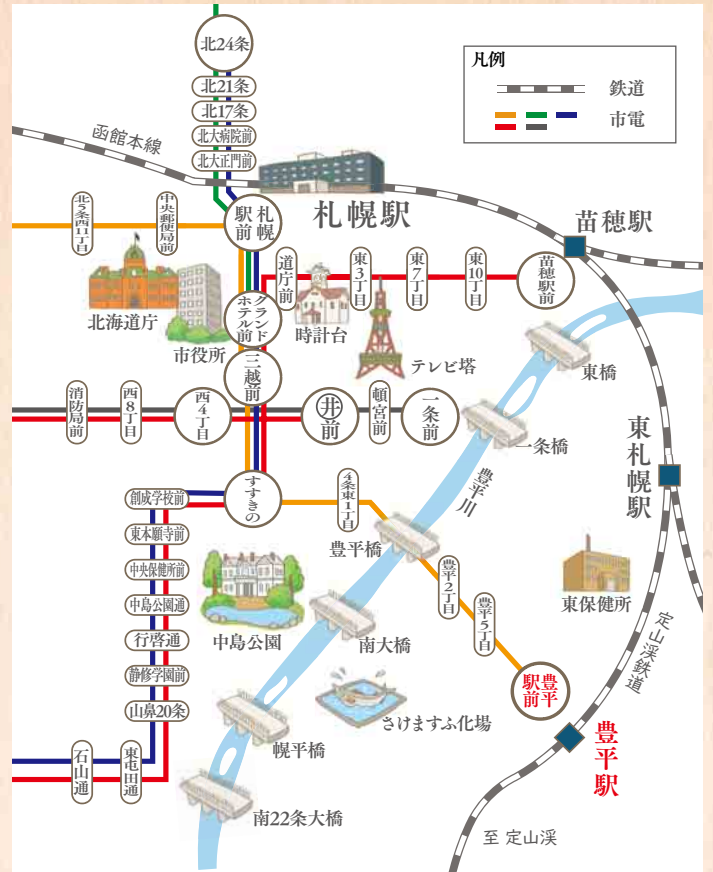
## 2 鉄道の全盛期

### 鉄道による旅客輸送の拡大

昭和6（1931）年に北海道鉄道（後の国鉄）の東札幌～苗穂間が電化したことで、定鉄は苗穂駅への乗り入れを始めました。戦後、昭和32（1957）年には、国鉄札幌駅までの気動車（エンジンを搭載した列車の車両。汽車などとも呼ばれる）の乗り入れも開始。定鉄は、開業以来の念願であった市内中心部との接続を実現しました。

### ターミナル駅として栄えた豊平駅周辺

市電網と結ばれ、国鉄駅への乗り入れも進んだことで、豊平駅はさまざまな路線を結ぶターミナル駅となりました。その影響はとて大きく、定鉄開業時には商店や住宅がまばらだった街道沿いでは急速な市街化が進んでいきます。戦後の復興と共に再建が進んだ市電は、昭和25（1950）年に市電豊平線の豊平駅前終点から定鉄豊平駅正面に引き込み線を設置。乗り換えが一層便利になりました。また、手狭になった定鉄豊平駅は、昭和33（1958）年に改築。木造から鉄筋コンクリートの一回り大きな駅舎へと生まれ変わり、定山溪温泉の玄関口として多くの人々に利用されました。



▲当時の鉄道・市電をイメージした路線図（昭和39年ごろ）

## 3 モータリゼーションの進展

### 定鉄と市電豊平線の廃止

昭和37（1962）年ごろから、道路の整備が進み、移動の足として路線バスや自家用車が普及し始めると、鉄道・市電利用者は減少の一途をたどります。鉄道が担っていた貨物輸送も、小回りの利くトラック輸送に取って代わっていきました。そんな中、定鉄に踏み切りの危険性の問題が浮上。改良工事には莫大な資金が必要なこともあり、定鉄はやむなく昭和44（1969）年10月31日の運行を最後に、鉄道の廃止を決めました。路線用地の一部は、地下鉄建設の用地として札幌市に売却しています。また、後を追うように市電豊平線も昭和46（1971）年に廃止となり、区内からその姿を消しました。



▲廃線前の市電豊平線（昭和46年）



▲定鉄の最終電車を見送る人々であふれる豊平駅ホーム（昭和44年）

昭和25 1950	昭和32 1957	昭和33 1958	昭和44 1969	昭和46 1971	昭和47 1972	平成6 1994
市電豊平駅前から定鉄豊平駅正面に引き込み線を設置	定鉄が国鉄札幌駅までの気動車による乗り入れを実現。東急の傘下に入る	定鉄豊平駅が改築	定鉄が廃止	市電豊平線廃止。市営地下鉄南北線（北24条～真駒内間）開業	札幌市が政令指定都市となり豊平区が誕生。冬季オリンピック大会開催	市営地下鉄東豊線（豊水すすきの～福住間）延長



## 4 市営地下鉄南北線・東豊線の開通

### 急ピッチで進められた地下鉄建設

車社会の到来により市内の交通量は飛躍的に増大し、市電・路線バスなどの交通事業は限界を迎えつつありました。そのため札幌市は、新しい交通機関の建設を計画。降雪量の多さなどから、地下鉄方式が望ましいとの結論に至り、札幌冬季オリンピック大会が控えていたこともあり、急ピッチで工事が進められました。こうして、昭和46（1971）年12月、市営地下鉄南北線（北24条～真駒内間）が開通。平岸の環状通付近で地上に出て、定鉄線路跡に建設された銀色に輝くシェルターの中をゴムタイヤで走る地下鉄は、当時、大きな注目を集めました。その後、昭和63（1988）年に東豊線（栄町～豊水すすきの間）が開通。さらに、平成6（1994）年、豊水すすきの～福住まで区間が延長されました。これにより、現在の区内における南北線3駅、東豊線5駅の計8駅が完成。豊平区は地下鉄が2路線走る区となりました。

札幌市公文書館所蔵



◀ 工事中の地下鉄南北線  
シェルター（昭和45年）

札幌市公文書館所蔵



◀ 地下鉄東豊線出発式  
（平成6年）

## 5 生活と共にある交通機関



▲ラグビーのワールドカップで多くの観戦客にも利用される福住駅（令和元年）

【参考文献】『さっぽろの足 写真でつづる50年』『株式会社じょうてつ100年史』など

### いつの日も欠かせない“区民の足”

現在、区内の主要交通機関となった地下鉄は、毎日多くの区民に通勤・通学などで利用されています。また、東豊線は札幌ドームを訪れる人たちの来場方法として定着しています。そして、区内の各地区をつなぐ北海道中央バスやじょうてつバスの運行も、区民の生活にとって、貴重な交通手段となっています。まちの発展や時代の流れとともに変化してきた交通機関は、今日も区民の生活を支えています。



2021年度も

続きます！

今後も、さまざまなテーマで今に至る豊平区の歴史を掘り下げていきます



広告